

藝文研究

第百十号

目次

- | | |
|------------------------------|------|
| 1 「記憶言語」と人麻呂歌集の読解機構（上） | 屋名池誠 |
| 25 『こまの物語』の生成——『うつほ物語』享受の一様相 | 高橋諒 |
| 45 揚雄の文學觀 | 荻野友範 |
| 60 ボードレールの美術批評におけるクールベ | 築山和也 |

115 彙報

- 2015 年度藝文学会シンポジウム——「幻想と文学」
- | | |
|---|-------|
| 121 質疑応答 | |
| 140 批評としての幻想——鏡花文学の認識風景をめぐって | 松村友視 |
| 152 幻想の島沖縄——鷹の渡り（伊良部島）・海蛇漁（久高島）・楠の木
(津堅島)についての断想 | 藤原茂樹 |
| 160 一角獣・迷宮・幻想 | 和泉雅人 |
| 162 はじめに | |
| 178 18世紀イングランドにおけるロココの「敗北」に関する一考察 | 夏一璠 |
| 191 「何よりもまず音楽を」——19世紀フランス詩における「俗謡」をめぐって | 五味田泰 |
| 204 余白としての演技——鈴木忠志演出『世界の果てからここにちは』
上演分析 | 寺尾恵仁 |
| 216弔う演劇の可能性——イエリネク／地点「光のない。」上演分析 | 石見舟 |
| 227 「人間学者」フリードリヒ・シラー——『視靈者』と経験心理学 | 厚見浩平 |
| 240 ラルフ・ウォルド・エマソンとマーク・トウェインにみられる
アメリカの逆説 | 細野香里 |
| 254 印刷工ジョン・ウルフによるマキアヴェリとアレティーノの
海賊出版における偽装工作 | 倉科真季 |
| 270 談話指示に用いる <i>Above</i> と <i>Below</i> に関する一考察：共起語の比較から | |
| | 堀内ふみ野 |

慶應義塾大学藝文学会